

令和3年度第1回 千葉市史跡保存整備委員会
議 事 録

1 日 時 令和3年8月28日(土) 午前10時00分～午前11時45分

2 場 所 Zoomによるオンライン会議 ※傍聴は教育委員会 第一会議室

3 出席者 【委員】

青木委員長、設楽副委員長、赤坂委員、今村委員、高橋委員
谷口委員、中村委員

【事務局】

(生涯学習部) 佐々木部長
(文化財課) 佐久間課長、森本主査
(加曽利貝塚博物館) 神野館長
(埋蔵文化財調査センター) 西野所長

4 議題

- (1) 委員長及び副委員長の選任について
- (2) 加曽利貝塚調査研究部会について

5 報告

- (1) 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備について
- (2) 令和3年度の発掘調査について

6 議事の概要

- (1) 委員長及び副委員長の選任について
委員の互選により、青木委員が委員長に、設楽委員が副委員長に選任された。
- (2) 加曽利貝塚調査研究部会について
今後の発掘調査や研究計画について審議するため、平成29年度に設置した加曽利貝塚調査研究部会を引き続き設置することとし、委員長から考古学を専門とする委員3名が部会委員に指名された。
- (3) 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備について
今年度予定している整備事業の発注状況を報告した。
- (4) 令和3年度の発掘調査について
今年度の発掘調査の概要を報告した。

7 会議経過

【開会】

(事務局：森本主査)

定刻となりましたので、ただいまより、「令和3年度 第1回 千葉市史跡保存整備委員会」を開催いたします。私は、本日の進行を務めさせていただきます 文化財課 主査の森本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日は7名の委員全員にご出席いただいております。委員半数以上のご出席をいただいておりますので、千葉市史跡保存整備委員会設置条例第5条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。本委員会は 千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開しております。議事録につきましても、同じく公開することとなっておりますので、事務局が作成した案を出席委員にご確認いただき、委員長の承認により確定いたします。傍聴人の方はお配りした傍聴要領をご確認の上、お守りいただきますよう、お願い申し上げます。

なお、緊急事態宣言下での開催になりますので、換気やマスク着用など新型コロナウイルス感染症の対策を十分に講じながら、会議を進めてまいります。恐れ入りますが、委員の先生方にはオンラインでのご参加をいただいておりますので、ご発言前に氏名をおっしゃっていただくようお願いいたします。

はじめに、教育委員会を代表して、生涯学習部長の佐々木より一言ご挨拶を申し上げます。

(事務局：佐々木部長)

生涯学習部長の佐々木でございます。令和3年第1回千葉市史跡保存整備委員会の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。このたび、皆様におかれましては、ご多忙のところ、本委員会の委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。本市は加曽利貝塚をはじめとした国指定の史跡が5つあり、そのすべてが縄文時代の貝塚であることなど、まさに「貝塚のまち」として、世界的にみてもすばらしい歴史に育まれています。このような史実を郷土の歴史遺産として、千葉市民のアイデンティティ確立に向けた事業が始まっております。特に本年は千葉市が市制施行100周年にあたることや、北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録されたことから、加曽利貝塚をはじめとする国指定史跡に関する事業は、市内外から注目を集めております。本委員会では、特別史跡加曽利貝塚の史跡整備や調査研究、新博物館計画をはじめ市内の各史跡の整備・活用につきまして、専門的見地からのご指導を賜りますとともに、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。

(事務局：森本主査)

次に、委員の皆様をご紹介します。委嘱状は、恐れ入りますが郵送させていただきます。お名前をお呼びしますので、一言ご挨拶をいただければと思います。

東京芸術大学客員教授 青木 繁夫（あおき しげお）委員

（青木委員 挨拶）

千葉大学名誉教授 赤坂 信（あかさか まこと）委員

(赤坂委員 挨拶)

観光コンサルタント 今村 まゆみ (いまむら まゆみ) 委員

(今村委員 挨拶)

東京大学名誉教授 設楽 博己 (したら ひろみ) 委員

(設楽委員 挨拶)

早稲田大学教授 高橋 龍三郎 (たかはし りゅうざぶろう) 委員

(高橋委員 挨拶)

國學院大學教授 谷口 康浩 (たにぐち やすひろ) 委員

(谷口委員 挨拶)

放送大学客員教授 中村 俊彦 (なかむら としひこ) 委員

(中村委員 挨拶)

委員の皆様、ありがとうございました。

(事務局：森本主査)

続いて、事務局の職員を紹介いたします。

はじめに、ただいまご挨拶しました生涯学習部長 佐々木でございます。(佐々木部長 一礼)

文化財課長 佐久間でございます。(佐久間課長 一礼)

加曽利貝塚博物館館長 神野でございます。(神野館長 一礼)

最後に、埋蔵文化財調査センター所長 西野でございます。(西野所長 一礼)

どうぞよろしく申し上げます。

それでは、次第に従いまして、これより議題に入らせていただきます。初めに当委員会の委員長と副委員長の選任を議題といたします。なお、委員長が決まるまでの間、佐々木部長が進行を務めさせていただきたいと存じます。それでは、佐々木部長、よろしく申し上げます。

【議題（１）委員長及び副委員長の選任について】

(事務局：佐々木部長)

佐々木でございます。委員長が決まるまでの間、議事の進行を務めます。

それでは、委員長の選任でございますが、条例第４条第２項により、委員の互選となっております。いかが取り計らったらよろしいでしょうか。

(高橋委員)

新博物館基本計画の議論を慎重に進めてきておりました、我々の意見を取り入れていただいて、議論の進め方、とりまとめ、また公正な議論を進められたのは、青木委員のおかげだと思っております。まだ基本計画も道半ばでございますので、引き続き、青木委員に委員長をお願いしてはいかがでしょうか。

(事務局：佐々木部長)

ありがとうございます。ご異議ありませんか。ご異議ないようですので、青木委員に委員長をお願いしたいと存じます。それでは、青木委員長、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、ここで青木委員長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

(青木委員長)

みなさま、ありがとうございます。前期に引き続いて委員長をさせていただければありがたいと思います。加曽利貝塚も特別史跡になりましたし、先ほど部長のお話にありましたように、縄文関係の遺跡が北海道や北東北で世界遺産となっていますので、注目を浴びている時です。加曽利については全国区になっておりますので、新しい博物館をそれに相応しいように皆さんの協力でできればと思います。コロナの影響で作業が遅れたりしていますが、少なくとも今年度中には、基本計画を出さなければいけないと思いますので、ぜひご協力いただきたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

(事務局：佐々木部長)

ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行は青木委員長にお願いいたします。

(青木委員長)

それでは、議事を進めさせていただきます。副委員長の選任につきまして、こちらも委員の互選となっておりますが、皆様のご意見はいかがでしょうか。

(高橋委員)

委員長に一任いたします。

(青木委員長)

よろしいでしょうか。よろしければ設楽委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(青木委員長)

ご異議ないようでございますので、設楽委員に副委員長をお願いしたいと存じます。それでは、設楽副委員長より、ご挨拶をお願いいたします。

(設楽副委員長)

副委員長ということで引き続き務めさせていただきます。この1月に「顔の考古学～異形の精神史～」という、先ほど谷口委員からも儀礼のお話がありましたけれども、そういう本にしました。NHKが面白がってくれて、10月くらいに「英雄たちの選択」という番組で取り上げてくれることになりましたので、是非よかったらご覧ください。残念ながらスタジオ収録ではないのですが、ピンバッジにかそり一ぬを付けております。新博物館オープンまで、あと5年程度になったわけですけれども、具体的な組織等、重要な検討課題を進めていくこととなります。委員長をお支えしていきますのでどうぞよろしく願いいたします。

【議題（2）加曽利貝塚調査研究部会について】

(青木委員長)

ありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。次の議題に移ります。「議題2 加曽利貝塚調査研究部会について」、資料1をご覧ください。

史跡保存整備委員会は、加曽利貝塚の発掘調査等を行う際に諮問的な研究部会を作っております。研究部会の委員について、選任しなければいけません。まず事務局に説明してい

ただいてから、選任します。事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明：資料1 加曽利貝塚調査研究部会について 説明。〕

(青木委員長)

ありがとうございます。委員長が指名する規定とのことですので、私の方からご指名することになります。仕事の内容としては、考古学の発掘調査のことが主体となりますので、考古学を専攻とされておられる設楽委員、高橋委員、谷口委員に前回と引き続きお願いできればありがたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、設楽委員、高橋委員、谷口委員、よろしくお願いたします。

【報告(1) 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備】

(青木委員長)

続きまして、議題の報告事項に移ります。「報告事項1 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備」について、資料2になります。事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明：資料2 特別史跡加曽利貝塚グランドデザインに基づく整備について 説明。〕

(青木委員長)

ありがとうございました。報告を受けてご意見ありますか。

博物館の基本計画はこれから議論していくこととなりますが、これは業務委託済みですので結果を待つこととなります。問題は入札不調になっている復元住居の問題です。みなさま、ご意見いかがでしょうか。

(赤坂委員)

クリ材が入手困難でほかの材でということでした。クヌギとおっしゃいましたが、これはちゃんとした使えるクヌギはあるもののでしょうか。強度はいかがのでしょうか。

(事務局：森本主査)

クヌギは園内で生えているクヌギを使って、二股に分かれた木材等を選んで使いたいと思っています。基本的にはあまり乾燥させてしまうのは考えておらず、冬に入ってから伐採して樹皮を剥いて使いたいと考えています。今までの加曽利貝塚の復元住居でも、その年に伐採した木材を使っていますので、そのように行いたいと考えています。

(赤坂委員)

クリ材を使っているのがこれまでの住居ですので、クリを使うことになったんですね。

(事務局：森本主査)

はい。特に縄文中期の場合、全国的にみても炭化材というかたちで見つかることが多いですが、ほとんどがクリ材ということもありまして、加曽利貝塚の炭化材もほぼクリ材です。できればクリ材を使いたく、実施設計を行ってきました。

(青木委員長)

考古学関係の観点からいかがですか。

(谷口委員)

3棟復元されて、1棟は崩壊しかけているということですが、その木材を再利用することはできないですか。柱は無理だとしても、屋根をふいている材料なんかは、縄文人も多くの木材は再利用していたと思うのですが、そのような再利用は検討できないでしょうか。

(事務局：森本主査)

検討できるのですが、縄文時代の材料を検討したうえで再現するのが今回初めてで、現在建っている2棟は、園内のクヌギや、公園によく生えているニセアカシアを使っておりますので、再利用したとしてもクヌギを使うことにはなります。

(谷口委員)

伐採してすぐ、乾燥させないで建物を組み立てると、材が割れたりゆがんだりしそうですが、それは大丈夫でしょうか。

(事務局：森本主査)

一番新しい復元住居は平成23年度に建てたものですが、それも建てる時に検討し、伐採時期を調整すれば、丸太で使用する分には問題がないと考えております。

(谷口委員)

壊れかかっている竪穴住居の中で定期的に火を焚いたりして管理していたのではないかと思います。そういう用材を使用したほうが、新しい部材で復元するよりは中に入った時の臨場感が増す気がします。新しい木材だけで建てる発想ではなくて、再利用を考えてもいいような気がします。その中にクリ材はなかったのでしょうか。

(事務局：森本主査)

はい。加曽利貝塚では今までクリ材を使って建てていません。

(谷口委員)

そうですか。なるべくクリで復元するほうがいいと思いますが、どうしても手に入らないということでしたら、仕方ないと思います。

(青木委員長)

私が聞いている範囲ですと、加曽利貝塚では今まで自分の敷地に生えている木材を切ってきて、その木材を利用して建築する体験学習をしていたんですね。本来ならば他の事例をみてもクリを使うのが多いようですが、そこは遺跡の今までのやってきたやり方を勘案し、手に入らないのであれば次回クリを使う方法をとれるようにして、今回は現実に即してやるのもよいのではと思いますが、いかがでしょうか。

(中村委員)

今、青木先生は大事なことをおっしゃいましたが、今回はまさに敷地に生えているクヌギを使うのは仕方ないと思います。

今後は、クリの林をあれだけ敷地がありますので、対岸を含むクリを栽培していたという景観の復元も含めて、ぜひランドデザインの中でそういう場所を考えて、身の回りの木材を使いながら少しずつ修復するようにするのが重要だと思いました。今回のことはそのまま事務局の案で進めていただければよいと思います。

(赤坂委員)

中村先生のお話で、用材の確保として、敷地内にクリの林を用意していくのは、将来を見たときに食料や建物の材となってサステナブルな方向を目指せばと思います。将来を考えてそれは念頭に置いていただければと思います。

(青木委員長)

それでは今回についてはクヌギでしていただいて(よいと思います)。今いろいろなところで、木造の建造物も木材が足りずに将来を見越して植林して木材を育てていくことをしています。加曽利貝塚でも同じように赤坂委員や中村委員がおっしゃった方向で、敷地で自給自足する計画をとっていきなのが、持続性が担保されていくのでよろしいかなと思います。皆様よろしいでしょうか。

(今村委員)

私は専門外なのでよくわかりませんが、市の説明で「調達できなければ仕方がないので、クリではなくクヌギで」という認識だったようですが、このことを考える観点は委員の皆様のお話にヒントがあると感じました。この復元にどのような意味があり、この建物を完成させた後に人々に何をどう説明していくかということを見ると、それによって結論が変わるのかなと思いました。納期を守っていつまでに建てなくてはいけないから、材料を調達するためにはクリをクヌギにしましょうねというのは話が早いと思いますが、先生方の話を聞くと、クリにしないことで価値が変わるのであれば、まだクリを探す手段がないのだろうかと思いました。

例えば縄文人がクリを選んで住居を建てていたのであれば、クリを使う必要があるだろうし、どうしてもクリの調達ができない条件の中で作らなければいけないのであれば、縄文時代の人達はクリをこんな風に活用していましたというストーリーを伝える必要があると感じました。そうすると先ほど谷口委員がおっしゃった、倒壊した建物の木材を再利用して使えないかとかは、もう少し検討してよいのではないかと思います。今この場をどうするかを考えるかはとても重要。コロナによるウッドショックに直面する中、遺跡の価値を下げないように、こんな取り組み方をして再現したという事実も物語になると思うので、もう一步踏みこんで対応策を考えるべきだと思います。

(高橋委員)

今年私もすぐ隣で地中レーダー探査をしていたので、復元住居がよく見えていました。3棟のうちの1棟は、2年前の台風で大きな被害を受けてボロボロになっていて、幽霊屋敷のようでした。そこでパラリンピックの採火式が行われていたので、テレビに映ってしまわないかひやひやしながら見ておりました。

先ほど谷口先生がおっしゃったようにまだ使えるものならば捨て去るのではなく、再利用可能である条件であればぜひ使っていただきたいものですが、あれはクリですか。

(事務局：森本主査)

クリではありません。

(高橋委員)

そうですか、そういうことであるならば、青木委員長がおっしゃったとおり、将来的な計画に備えていくのがいいですね。遺跡にクヌギを植えるというのは時代遅れで、そこに生え

るクヌギというのは遺跡破壊の何物でもないとは実感しているところです。徐々に植え替えて、将来的な計画に備えることが必要と思います。

事務局が今あるクヌギを伐採して、と考えるのは、おそらくいま北貝塚にクヌギが密集しているので、台風が来る度に倒木と倒木による貝層の破壊を一刻も早く改善したいという気持ちがあるのだと思います。今クリ材がなかなか手に入らない状況であるならば、クヌギが万全とはいえませんが、クリに変えていくということを考えながら、廃材を利用して、なおかつ直径 20 センチくらいのクヌギを伐採してうまく活用しながら、これを過渡期の状況として前提にやっていただければと思います。

(青木委員長)

これはいろいろご意見あると思いますが、ただ単に置いてあるわけではなく、体験学習にも使いますので、場合によっては中で宿泊体験をやっている博物館もあります。そうすると一つは安全性のことを考えないと難しいと思います。実際にクリを使ってはいないそうですが、今までは材のことを考えずに作っていたと思います。一つは自分のところにあるものを利用して作る、作る時は体験学習として皆さんと作るというスタンスでやっていた。ですから古い材を使うことはいいのですが、かなり古い材の吟味をして作らなくてはいけないと思います。根腐れして接ぎ木でやることなんかは、もともと復元住居なのでそぐわないかなと思います。

今村委員がおっしゃったストーリーが必要ということは、(私も) 必要だと思います。ですから、この建物を、従来の研究ではクリを使うことが多いけれども、今回はどのようにクヌギを使ったのかということストーリーとして説明できることを考古学の先生に考えていただいて、サステナブルという点でも委員の先生にご意見いただいて、ストーリーを考えながら今回は考えていただきたいです。遺跡の中のものを使って復元していただいて、植生やランドデザインも含めて将来的にはクリ材を使用する考えでいくという方向をストーリーとして打ち出すことも可能か思います。そういった方向でまとめていただいて、古材も活用しますが安全性に考慮したうえで使って、私たちの保存の観点からみると大分傷んでいるので、使用に耐えなければ廃棄して、根腐れした部分を接ぎ木してまで使うのは安全性に問題があると思うので、遺跡にあった木を、今回はたまたまクヌギですが、使用していただいて仕方がないと思います。これを来年度再来年度に引き伸ばしても博物館の体験学習にもスケジュールに支障が出ると思いますので、今後、置き換えを前提に市の方で計画を考えてください。

(設楽副委員長)

今の委員長のまとめでよろしいと思います。一つ事務局に伺いたいのは、加曽利で焼失家屋が出ていて、大部分がクリ材だと思いますが、クヌギは使われていませんか。

(事務局：森本主査)

加曽利貝塚では、総括報告書で炭化材の樹種同定をしていますが、20 点分析をしたうちの 11 点がクリ材という結果が出ています。クヌギ材が 1 点出ているのですが、古墳時代の住居跡でした。縄文時代の住居跡はクリ材でした。

(中村委員)

縄文時代の人の立場になったら、台風が来て家がつぶれてしまったと。本来であればクリ

材で作りたいけれども、クリは非常に有用で食糧でもあるし、かといって家がなくても困りますから、クヌギをとりあえず使って家を建てたというストーリーで、昔の人も家がないと困るので、かといって高級材を使うわけにもいかないの、将来的にはクリを使うということで、今回はクヌギで建てるので良いかなと思います。

(青木委員長)

今村委員、今回はそういう方向でよろしいでしょうか。

(今村委員)

ありがとうございます。今回はそういうシンプルな方向でよろしいと思います。要はどちらがいいのか迷ったときに、ここまで考えて決めて納得できればと思います。

(青木委員長)

復元住居の問題は学問的にも議論があると思います。かたち、つくり、その辺は難しいので、ここでは学問的な話には議論できませんので、形式としては従来式のものでやっていますので、今回はクリを使わないという方向で収められればと思います。

(谷口委員)

少し考古学的根拠を話しておきたいと思います。先ほど材の再利用の話をしたのは根拠がありまして、縄文時代中期後半の竪穴住居では、ほとんど同じ位置に柱穴を掘り直して、上屋を改修している事例が非常に多いです。結果的に非常に大きな柱穴になる事例が多いですが、それは柱と柱の間をつなぐ桁を再利用することが多いからだと思います。垂直に立っていて屋根を支えている柱はどうしても根本が傷んでくるので、それは変えなければならぬけれども、桁に使われているものについては、捨てないで相当長い間再利用されていると思います。そういう発掘調査上の考古学的な根拠というのはたくさんありますから、桁や火棚を再利用するのは考え方としてはできるならその方がいいと思って意見をいたしました。

(設楽副委員長)

今考古学的観点からという話がありましたので、私も一言、先ほどクリ林を作る提案がありましたが、縄文時代中期はどうもクリを管理していたということがわかっていますね。花粉分析も集中的に出ている、畑という用語があるかもしれませんが、育てていたといわれています。恐らく加曽利貝塚のこの縄文中期の繁栄を支えたのも食料と建築材でのクリが大きな役割を果たしていたと思います。ですから遺跡にクリを復元してこれから家屋に使うのは非常によろしいと思いました。

それは今後のことですので、今回は移行措置としてクヌギを使うということによろしいかと思いますが、ゆくゆくは考えていただきたいことと思います。

(青木委員長)

ありがとうございます。ただいま設楽先生がまとめてくださった方向でできればと思います。ではよろしく申し上げます。森本さん、そういう方向でお願いします。

(事務局：森本主査)

ありがとうございました。縄文時代の住居でクリが使われていることは先生方もおっしゃったとおり、材質的な特徴とあわせて身の周りにクリがあったことが大きいと思いますので、ランドデザインでも長期的には植生復元ゾーンの復元も謳っておりますので、ゆくゆくは

クリ林を作ってクリを住居の柱に使う等の仕組みが重要と考えております。

短期的な問題では、今回の住居は今村委員からもストーリーの大切さについてご意見いただきましたので、身の回りの木材を使っているということを強調し、今回クリ材を使っていなかった理由を説明し、今回解体する住居の木材の使用を検討しながら、縄文時代の人々の住居の作りに近い形でやっているということを説明するように整備していきたいと思っております。

【報告（2）令和3年度の発掘調査について】

（青木委員長）

よろしいでしょうか。次の項目、「報告事項2 令和3年度の発掘調査」について、説明をお願いします。

〔事務局説明：資料3 令和3年度の発掘調査について 説明。〕

（青木委員長）

ありがとうございます。調査についていかがでしょうか。

（高橋委員）

西野所長、暑い中調査ご苦労様です。先日までレーダー調査をして、隣で松田さんが発掘していたので様子を見させていただきました。中央窪地はおそらく人為的な削平がかなり及んでいるのかなという思いで見えておりました。調査区の南貝塚の南西部の方で、少し遺構がかかっているのかなという感じがしました。これはレーダー探査でも、貝層を外れた部分でも、赤く黄色く反応が出たので、何らかの遺構があるだろうなということお伝えしたと思っておりますが、その点、私たちは18日以降様子がわからないものですから、その点いかがでしょうか。

（事務局：西野所長）

私もまだ確認していないので、これから確認してお伝えしたいと思っております。

（設楽副委員長）

西野さん、お疲れ様です。中央窪地ですが、人為的な掘削の可能性が出てきたということですが期待がありますが、その根拠はどうでしたか。根拠となるようなことが新しい調査でわかったことがあればお聞きしたいです。

（事務局：西野所長）

まだはっきりとわかったわけではありません。新聞に出ていたのは、はっきりわからないけれどもその可能性があるということと、実際どうなのかその答えを出していくので楽しみにしてくださいねということで報道で出ていました。

ではどうやって解明するかということですが、まず掘削されたところがローム層のどのあたりかということをもさまざまな分析で検討しようということと、それから遺構があるか、遺物の出土状況、例えば、出土遺物が三輪野山遺跡では一番最後の時期の土器しか出なかったのですが、一番下の層から。そうすると最後まで掘削していないとそういうことはありえないと思うので、そういういろいろなところから見ていきたいと思っておりますけれども、今まで様々な後晩期の集落を掘った方々、議論に加わった方々にご意見をいただいて解明につなげてい

きたいと思います。

(設楽副委員長)

ローム層で段差がついて明らかに削ったような部分が見えることが非常に大きな根拠になると思います。どうぞ引き続きお願いします。

(谷口委員)

この部分を発掘していこうというのは、部会でも出ていましたのでぜひ進めていただきたいと思います。成果に期待しております。

調査区の形について再確認ですが、同じ幅の長方形の調査区でなくて、南に幅広になっているのはどういう理由だったか忘れてしまったので教えてください。

(事務局：西野所長)

旧トレンチが斜めにかかっています、ここのへりが分かりにくいというところです。それと中央窪地のところに広く掘削確認できるようにということで広げたと思います。

(谷口委員)

旧トレンチの位置は資料2の最後のページでAというところで、途中でトレンチが切れているように見えますが、ここまでがトレンチの範囲だったのでしょうか。

(事務局：西野所長)

そうです。

(谷口委員)

わかりました。

(中村委員)

窪地が自然なのか人が作ったのかという話がありますが、機能的、社会的、自然的な意味合いはどのようなことが考えられているのか、せっかくですから教えていただければと思います。

(事務局：西野所長)

私は形成過程ばかり言っていますが、何に使われたかというのは、ここはどういう場所なのかということも大きな目的です。これもたくさん意見がある中で思い出すものをご紹介しますと、聖なる場所、共同作業の場所、そういった意見があったと思います。今までほかの遺跡で発掘した例を見ますと、この中には遺構がない。穴を掘ったり住んだりしてはいけない場所というところまでは同じだと思いますが、具体的にになるとまだわからない。

(中村委員)

凹んでいるので周りの住居に水はけをよくする、住居を湿気から守る。大地の上なので水はけはいいのだと思いますが、そういう機能かと思っていました。

(赤坂委員)

千葉県には謎の窪地がたくさんありますよね。まだわかりません、たくさん説がありますと言われます。佐倉にも結構あって、まだ解明されていないと聞きます。

(青木委員長)

諸説あるところを解明するための発掘調査ということで、頑張ってくださいと思います。発掘調査の現地説明会は何回ですか。

(事務局：西野所長)

現地説明会は1回です。毎年行っている、1日1回の定時の説明会を行います、そのためにきれいに掃除をしてたくさんの人に来てもらうのは1回です。

(青木委員長)

一番遺構の状態が良い時ということですね。日程が変わったりしますか。

(事務局：西野所長)

このための広報もしますので、日程は変わりません。

(高橋委員)

中央窪地を丹念に調査されていてそのやり方は非常にご苦労様と思います。この後を聞きたいのですが、また、調査研究部会で検討した方が良いのだと思いますが、どこまで中央窪地を発掘するのかということについて、先を読んだお考えはございますか。

(事務局：西野所長)

これはどこまでということは今から考えたいと思います。申し訳ありません。

(高橋委員)

そうですね。続けて、前回、大型住居の調査を半分に留めて、全掘せずに残した経緯もありましたよね。その理由は中央窪地の関係が重要だと仰っていて、そのとおりだと思います。

もう一つ加えるならば、周りの貝塚、むしろ土盛り遺構というのが正解だと思いますが、むしろ10いくつポコポコと山になっている、小山の丘陵上になっている、あれとの関係で初めて中央窪地の意味も質されるだろうと思いますので、全部掘ったら大変なことになると思います。すでに発掘されている場所の近くでも良いと思うんですね。そういったところを一つ調査できるような体制を検討していただければと思います。というのも私は昨日、埼玉の埋文で長竹の遺物を見せていただいたのですが、たったふた山、中央窪地のお墓を掘るだけで、あれだけの時間と予算が掛かっていますので、大変だということがわかります。加曽利南貝塚はその数倍の規模ですので、やるとなったら恐らく相当の覚悟が必要になりますが、ある程度中央窪地だけでは、南貝塚の評価はできないと思いますので、そういったことも長期的なビジョンのなかで徐々に煮詰めていっていただければと思います。

(事務局：西野所長)

ありがとうございます。

(青木委員長)

それではこういった形で発掘調査をしていて、現地説明会も開催しますということで収めたいと思います。今後については調査研究部会の中で議論をよくしていただいて、調査結果を含めて整備委員会でご報告いただければと思います。

まだ不確定な部分がたくさんあると思いますが、よろしいですか。全般的なことについて何かありますか。

(赤坂委員)

今日の資料で形式的な話ですが、全部元号になっています。西暦も併記していただきたいと思いました。

(青木委員長)

それは事務局に要望としてお伝えしたいと思います。

(赤坂委員)

会議で出てくる資料については。

(青木委員長)

それでは事務局に要望ということで伝えたいと思います。市は、正式文書は元号でいくという状況でしょうから。

(赤坂委員)

併記であれば問題ないかと思います。

(青木委員長)

わかりました。事務局への要望ということで。他にございますか。

(中村委員)

今までやってきた博物館の基本計画ですが、前回でほぼできたと思いましたが、発表はいつでしょうか。

(事務局：佐久間課長)

中間とりまとめについてはHPで公開しております。今後については今年度どう建てるかの整備・運営手法と周辺ゾーンの事業化をコンサルが調査しておりますので、その成果をこの前いただいた中間取りまとめ案の修正作業とあわせて、今年行っている調査結果を反映させたいと、最終的な基本計画の策定へと考えております。

(中村委員)

そうすると貝塚群以外の、まさにランドデザイン的な部分の追加があるということですね。

(事務局：佐久間課長)

史跡内以外の坂月川の対岸も博物館の整備・運営手法の調査とちょうど隣接地の縄文の森の集客活用ゾーンという縄文の森の中の事業化構想を調査しているところです。

(中村委員)

今日話が出たようなクリの林を作るとか管理ゾーンと保存ゾーンと分かれていましたね。そういった具体的な話がないとまた変わってくると思いますが。

(事務局：佐久間課長)

クリの話は史跡内を元の植生に戻そうということの中で今日いただいたご意見を十分に反映させていこうと思います。

坂月川の対岸は縄文の森の特別緑地となっていますので、基本的には現状の保存がベースとなっています。それだけでは自然に親しむということが難しいので、自然を生かしながら楽しく学べるという集客活用ゾーンということがランドデザインでは位置付けられていますので、それを具現化しようというのが今回の調査の一つです。

(中村委員)

それは違う部門で検討しているんですか。緑政課とか。

(事務局：佐久間課長)

緑政課と一緒にやっているという状況です。

(中村委員)

千葉市はまだ縦割りが激しくて、縄文の森は公園緑地部だったり、河川や環境も関わったり、もう少し多様性を統合したような加曽利貝塚の計画を作る必要があると思うし、我々もいつの間にかできちゃったというわけにはいかないと思いますので、基本計画に入るのであれば、私たちにも教えていただけたらと思います。

(事務局：佐久間課長)

周辺とどうやって一緒に行くかを検討している部分です。特にグランドデザインの中にはありませんが、坂月川の上流には環境の保全でやっている部分もありますので、まったく切り離すことはできず。考えなおさなければいけない部分が出てきましたので、今環境局とは合意するには至っていませんが、グランドデザインにも書いてありませんので、その点も縄文の全体の話から分断されるようなわけにはいかないと考えています。

(設楽副委員長)

今の中間取りまとめ案の話ですが、最終的にはこの3月16日に我々で議論して、修正案をいただきましたが、それも事務局で取りまとめて、次に議論されるのは12月に予定している2回目の委員会になるわけですね。

(事務局：佐久間課長)

その会議ではある程度最終的なものになると思いますので、今行っている検討調査と並行して、中間取りまとめの修正作業も行いますので、会議開催というかたちでなく、途中の案として修正案を先生方に見ていただかざるを得ないかと考えています。

(設楽副委員長)

そうすると12月以前に我々のほうに投げかけがあるということですね。

(事務局：佐久間課長)

そうです。

(設楽副委員長)

わかりました。それと第2回と第3回の議論の内容は決まっていますか。

(事務局：佐久間課長)

進捗によるところですが、計画自体は第2回である程度取りまとめをして、第3回目は年度末の定例的な会議で、年度の取りまとめと次年度の事業計画のご報告をしたいと考えています。

(設楽副委員長)

冒頭のご挨拶でも申し上げましたが、そろそろ組織づくりについて具体的な案を示しながら、大枠もまだ決まっていないところですが、具体的な議論に入っていないと時間遅れになってしまうと困りますので、そのスケジュールもご案内いただければと思います。

(事務局：佐久間課長)

お陰様で建物をどうするかはお力添えをいただいてまとまってきたところですが、運営をどうするかはまだまだな部分があります。博物館もかなり大きくなりますので、運営を直営だけでやるのは厳しい状況だと思います。この区分けを民間に任せるものと、直営で堅持するものとをきちんと整理して、そのあたりをご審議いただきたいと思います。

(設楽副委員長)

そこは大きな問題です。民間に任せる部分が研究側面あるいは展示も含めてとなるとどうしようもない博物館になってしまいます。

それはもう時間をかけて議論しなくてはいけないと思います。繰り返しになりますが組織を早く固めて、新しい博物館を担う人を決めていかななくてはいけない。その人に新博物館を自分のものになっていくのですから、ぎりぎりになって、「はい、どうぞ」というのはまずいと思います。そこらへんもお考えいただけるとありがたいと思います。

(事務局：佐久間課長)

少しずつですが新博物館のための要員としての新規採用も、段階的に考えております。一気にではないですが着実に進めていきたいと思っております。

(設楽副委員長)

そのところは研究組織とリンクしてくるのですから、誰それという人当てを考えるよりも、どういう組織を作るんだということと一番大きく結びついてきますから、先ほどから組織の議論を具体的に早く進めてほしいと申し上げているわけです。

(事務局：佐久間課長)

はい。十分留意して進めていきたいと思っております。

(谷口委員)

ランドデザインの議論の頃から何度も発言・質問させていただいておりますが、加曽利貝塚の景観を台無しにしている鉄塔の問題。北貝塚の真ん中に立っている送電線の問題ですが、あれは将来的には別の場所に撤去していただくのがいいと思いますし、国の特別史跡の中にあのような送電線の鉄塔が立っているのはまずいことと思います。何度か質問させていただいたときに、東京電力側と粘り強く議論していく、相談していくという回答がその都度あったと記憶しておりますが、どのように進展していますか。

(事務局：佐久間課長)

正直、東京電力もあの部分だけよけられるというものでもないことと、ここ4～5年でできるとか期間的な話ではできないものですから、しかし千葉市としては最終的には撤去をお願いしたいという意志を持っております。

(谷口委員)

それを強く出して継続してやっていかないと、この委員会の報告事項なり継続事項の中に議題としてちゃんと位置付けていただかないといけない大きい問題だと思います。広い意味では歴史的景観だと思いますが、そういう縄文文化の景観がこれだけ素晴らしい形で残っているわけですから、さらに鉄塔を除去することでその価値を高めていく、本来の姿に戻していくということが大事じゃないでしょうか。

(事務局：佐久間課長)

それは重々認識しております。本日ご意見いただいた、クリのことなど、当時の植生に戻すようなことも含めて、着実に進めていきたいと思っております。

(谷口委員)

是非よろしく申し上げます。

(青木委員長)

それでは本日の委員会はこれで終わりにしたいと思います。よろしいでしょうか。では議事の進行を事務局にお返しします。

(事務局：森本主査)

本日はお忙しい中長時間のご審議ありがとうございました。以上を持ちまして、令和3年度第1回千葉市史跡保存整備委員会を閉会いたします。

——了——